

都道府県・市区町村等の職員、その他地域の温暖化対策推進のために活動するみなさまへ

地球温暖化対策の普及啓発活動に関する参考資料について（情報提供）

我が国の中長期的な地球温暖化対策について検討する中央環境審議会地球環境部会2013年以降の対策・施策に関する検討小委員会のコミュニケーション・マーケティング^{ワーキンググループ}WGでは、伝え手（地方公共団体職員や地球温暖化防止活動推進員、NGO・NPOで活動されている方など）を通じて、生活者に地球温暖化対策に取り組んでいただくためのコミュニケーション・マーケティングのあり方を検証する、「伝え手のためのワークショップ」を2012年度に開催しました。

このワークショップでは、参加者の方に実際に普及啓発の企画を立案・実践していただくとともに、講師による改善アドバイス、グループワークによる伝える活動の検証等を行いました。ワークショップを通して作成されたガイドラインや講義資料など、全国各地で地球温暖化対策を伝える活動をされている伝え手の皆さんに活用していただくため、ホームページにて公表しております。

是非、地域における普及啓発活動等で積極的にご活用ください。

環境省 地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ
伝え手のためのワークショップ<http://www.challenge25.go.jp/roadmap/ws.html>

～ 主なコンテンツ ～

★伝え手のためのガイドライン（PDF版・ワード版）

地球温暖化対策に係る普及啓発活動における効果的な伝え方（伝え方のノウハウ）について、事前に生活者の実情を把握する「マーケティング」と、伝えるべき情報や伝え方について検討し、実行し、結果を評価する「PDCA」の2つのステップに分けて解説しています。

★伝え手のためのワークシート（パワーポイント版）

地球温暖化対策に係る個別の普及啓発活動について、質問に自ら答えていく形式で企画及び立案や実施結果の評価を手助けします。

★「温暖化の議論Q&A」（動画／PDF版・パワーポイント版）

地球温暖化対策に係る普及啓発活動で受ける質問の中でも、近年の温暖化の原因がCO2って本当？、最近の異常気象（短期集中豪雨・猛暑等）は温暖化のせい？、予測は当たるの？、日本における影響は少ないのでは？など、よくある科学的な質問に分かりやすく答えています。

★伝え手のためのイラスト集（JPEG版）

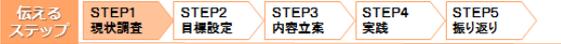
温暖化対策に関する無料のイラスト集です。

※資料の改善点などについてのご提案がありましたら、是非ご連絡ください。

環境省地球環境局総務課低炭素社会推進室
TEL: 03-5521-8244 FAX: 03-3581-3348 E-mail: CHIKYU-
TEITANSO@env.go.jp

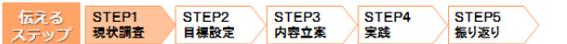
ホームページに掲載されているコンテンツの一部抜粋

伝え手のためのワークシート
(パワーポイント)



ワーク 1-1 どういう場で実践を行いますか

会場や時間、主催者はどのようなになっているでしょうか？そのほかに特徴的なことはありませんか？



アドバイス 1-1 場の特徴は多角的に捉えましょう

場の特徴から、参加者がどのような人か、どこでどのような伝え方ができるのかを捉え、場に合わせたテーマ設定を行いましょう。



場の設定のポイント

- 場に来る人の属性や関心は、場によって異なります。企画者が誰なのか、場所はどこか、イベントのタイトルは何か、どんな季節やタイミングで行うのかなどで来場する参加者は異なることを認識しましょう。例えば、同じ内容の説明会であっても、主婦を集めたい場合と、サラリーマンを集めたい場合では、場所も時間も変えなければなりません。
- 特に、温暖化への関心の低い人に伝えるためには、自分から既存のコミュニティに出前に行くことも重要です。即ち会やサークルなど、既に人が集まっている場を活用するなど、自分から場を見つけに行きましょう。
- また、場所や時間の設定は、実践の際の伝え方とも大きな関連を持ちます。参加型の手法を用いたい場合は、時間は長く、座席は移動可能で広い会場の方が望ましいでしょう。

で行われる料理教室の協力を得て、料理教室の時間を20分ほどもらい、キッチン周りの省エネアドバイスをします。

毎月第1木曜日の午前中に開催。

を主催し、公民館で30分程度の太陽光発電補助説明会を実施する。説明会は、太陽光発電補助制度や具体的な事業者、販売業者を知る会の2段階に分けて実施する。

- ワークショップ当日の編集動画 (YouTube)
- 講義1 コミュニケーション・マーケティングとは
- 講義2 伝え手のためのワークショップ第1回
- 講義3 温暖化の議論のQ&A
- 講義4 温暖化対策を知る



1. 予測は当たるの？

→ 予測の信頼性は高まってきています。

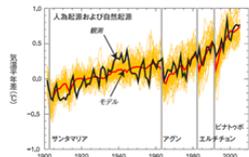


図1. 1901～1950年を基準とする世界平均地上気温の偏差

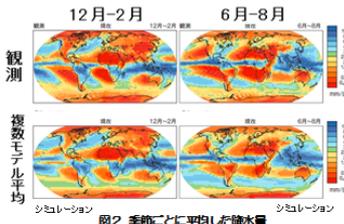


図2. 季節ごとに平均した降水量

- 気候モデルは物理法則に基づき、一部これまでの観測データを用いています。
- 経験則の取り扱いにはモデルと観測との違いを考慮する必要があります。
- この経験則の部分などに計算結果に違いが生じます。
- 複数のモデル間で平均し、観測結果をよく再現できるように調整が行われます。
- 複数のモデルで季節平均よく再現できています。
- 気候モデルを用いた過去の気候との関係的な方法によって、重要な多くの過程を再現し、それにより信頼性が向上しています。(出典：IPCC AR4)

出典：図1.図2 AR4 WG1 技術要約

環境省「伝え手のためのワークショップ」2012

8. 温暖化しても適応したらいいだけでは？

→ 温暖化影響への対応（適応）には限界があります。気温が4℃を超えると、多くのシステムが適応能力を超えると考えられています。(IPCC AR4 WG2 技術要約)

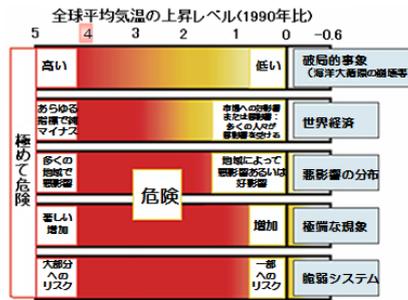


図1. 「懸念の根拠」2009年更新版

出典：IPCC <http://climate-edge.net/?p=2396> (一部改定)

- 将来に生じる影響を少なくするために、緩和の努力が重要です
- 不可避の影響については適応策で対応する努力が重要です

環境省「伝え手のためのワークショップ」2012

温暖化の議論Q&A (パワーポイント)